

編集後記

本号の冒頭に掲載したルーカス・ノーマン教授の論文は、私が本年 2 月にロンドンを訪問した際に依頼し、執筆していただいたものである。その時私はロンドンに 1 週間滞在したが、佐野正彦氏（大阪成蹊女子短期大学教授）の案内で青年（や成人）を対象にした職業訓練機関（テクニカル・カレッジ）や中等教育機関（シックス・フォーム）を訪問した。16 歳から 18 歳の若者たちに無料で職業訓練を実施しているイギリスのテクニカル・カレッジの諸施設は、国家からの補助金で最新の設備を更新しており、非常に興味深いものであった。その学校の校長先生に学校の歴史を尋ねたところ、100 数十年の歴史をもち 19 世紀にはメカニック・インスティテュートという名称であったことを聞いた。私の中にあるイギリス技術教育史像と目の前にある施設とが繋がったとき、その歴史的な連関は特別の感銘を私に与えた。

アイスランドにおける手工教育に関する論文は、2005 年 3 月に名古屋大学を訪問したギスリ・ソルシュテイン氏が筆者の所蔵するデンマークやスウェーデン関係のスロイド教育の歴史関係資料に触発され、それを契機としてなされた共同研究の成果である。その翻訳は、博士課程大学院生の野村浩志氏によるものであるが、この原稿は私の担当する大学院ゼミの一つである「北欧教育ゼミ」（授業科目名は「技術教育学Ⅰ」火曜日 6 限）において集团的に検討したものであり、そのゼミ全体の成果でもある。この「北欧教育ゼミ」では、これまでの研究室報告に掲載された英文の論稿の日本語への翻訳作業を続けており、次号以降にその成果を報告していく予定である。

本号にはロシア語の原稿が一つ含まれている。私が 2001 年 9 月にロシアで開催された技術教育に関する国際会議に出席した折にボルガ河流域の学校をともに訪問したゴッペ氏に、ロシアにおける技術科教育の現状について論考の執筆を依頼した。この国際会議は、約 3 週間にわたり、船上で開催され、運航の途中でボルガ河周辺の各地の学校や諸施設への訪問見学を含むものであり、それ自体がとても興味深い内容であったが、それとともにそこで出会ったロシアの教師たちとの交流は忘れがたい思い出となった。私はその翌年にも学生たちとともにふたたびロシアの地を訪問した。その記録は「ロシア研修報告書」（2002 年、横山研究室発行）にまとめた。この報告書は、今後名古屋大学図書館のリポジトリに登録し、研究室の HP（<http://gijyutukyokuigaku.blogspot.com/>）からリンクを張って読むことができるようにしたい。また、このゴッペ氏の論文の翻訳は次号に掲載する予定である。

Eva Trotzig の論稿は、スウェーデンにおける女子のためのスロイド教育の開拓者ともいべきフルダ・ルンディーンの功績をまとめた学位論文の概要の英訳である。私が氏に初めてお会いしたのは、1998 年 1 月にリンショーピン大学の教育学研究科において開催された、氏の博士学位取得のための学位論文の公開討論会においてであった（1997 年 8 月から 1998 年 3 月まで私はリンショーピン大学スロイド教員養成所に客員研究員として滞在していた）。そのときの氏の颯爽たる風姿は印象的なものであったが、その後 2003 年夏に氏にストックホルム教育大学で再会することになった。氏は当初ストックホルムにあった教育学図書館において専門職員として勤務していたが、同図書館の閉鎖後、ストックホルム教育大学の図書館の参考係で勤務していた。私が 2003 年 8 月から 2004 年 8 月にかけてスベン・ハルトマン教授のもとで客員研究員として研究活動に従事していたときには、氏は同じ研究室で研究活動に従事していた。私はそのスウェーデン滞在中に氏に 19 世紀の手書き文書を読む手ほどきをうけた。スウェーデン語という新しい言語の習得に四苦八苦していた私にとって、氏の支援はなにもものにも代えがたい好意であった。

Annelie Holmberg の論稿は、2009 年 2 月 20 日に博士学位取得のための学位論文の公開討論会がウプサラ大学で開催されたときの学位請求論文の概要の英訳である。ウプサラには、家庭科の教員養成を主要な目的にした学校施設が長く存在した（のちにウプサラ大学に統合された）が、その歴史をとりあげた最初の博士論文が氏の学位論文であろう。残念ながら私はその公開討論会に出席できなかったが、その直後に渡瑞し、氏の学位論文（“Hantverksskicklighet och kreativitet, kontinuitet och förändring i en local textilläroartutbildning 1955-2001”）を入手することができた。氏は現在学校教育庁(Skolverket)に勤めており、多忙であるため、私からは書き下ろしでの投稿を依頼したが、学位論文の英文概要にならざるをえなかったようである。

本号も多くの英語で書かれた論稿を掲載することになった。前述したように、次号ではこれらの日本語への翻訳をより多く掲載する予定である。

（横山悦生）

著者紹介（掲載順）

Norman Lucas	Faculty of Policy and Society, Institute of Education, University of London, UK
鈴木 隆司	千葉大学教育学部
Gisli Thorsteinsson	Department of design and craft, Iceland University of Education, Iceland e-mail : cdt@hi.is
Brynjjar Olafsson	Loughborough University, UK e-mail : brynjar@hi.is
Etsuo Yokoyama	名古屋大学大学院教育発達科学研究科 e-mail : n47131a@nucc.cc.nagoya-u.ac.jp
野村 浩志	名古屋大学大学院教育発達科学研究科院生
加藤 敬之	名古屋大学大学院教育発達科学研究科院生
Николай Гоппе	ニジニ・ノブゴロド市第 124 番学校技術科教諭, ロシア
Eva Trotzig	元ストックホルム教育大学, スウェーデン
Annelie Holmberg	Department of Art History, Uppsala University, Sweden
Bjørn Magne Aakre	Department of Arts, Folk Culture and Teacher Education, Telemark University, Norway e-mail : born.aakre@hit.no
Mohammed Nasir Uddin	Department of Agricultural Extension Education, Bangladesh Agricultural University, Mymensingh, Bangladesh e-mail : nasirbau@gmail.com

技術職業教育学研究室 研究報告 第 6 号
技術教育学の探究

発行日 2009 年 10 月 31 日
編集・発行 名古屋大学大学院教育発達科学研究科
技術教育学（横山）研究室
(<http://gijyutukyokuikugaku.blogspot.com/>)
名古屋市千種区不老町
印刷 (株) 友人社